

学校教育自己診断の結果と分析

【学習指導等】

・『自分で考える力』が身に付いた」の肯定率+12P、「物事に対する理解力」が身に付いてきている」の肯定率+11P で、1人1台端末の活用やパフォーマンス課題の導入等、教員の取組の成果が表れている結果であると考え。一方、保護者アンケートの「子どもは授業が分かりやすく楽しいと言っている」の肯定率+8P の 53%に留まり、単に課題を課すだけではなく生徒個々の理解度の把握が必要で、授業の時にしかできない学びを展開し、理解度に応じてどのような指導をすべきか考えていかなければならない。また一つ上の課題に取り組む粘りや思考力・判断力の育成が必要と考えている。

・授業等で、「『発表する力』が身に着いた」の肯定率+13P、「『相手とコミュニケーションする力』が身に着いた」の肯定率+12P となり、授業展開の中でペアワーク、グループワーク、その他協働作業による活動、発表活動を積み重ねている成果が表れていると思われる。

・「授業でのコンピュータやプロジェクター活用」の肯定率 93%[81%]について、次年度以降はデジタル教材の共有や共同開発などにも取り組んでいきたい。

【生徒指導】

・4年制大学進学率 60%以上、夏季勉強合宿や One_Day 勉強合宿の参加生徒参加のべ人数 253名、進路指導部の担当者の努力がよく表れた結果となった。

・生活指導における「家庭との連携」の肯定率+22P、「先生の指導への納得」の肯定率+10P、生徒指導の方針への共感の肯定+14P で、課題は一定あるものの、教員の取組みが少しずつ浸透し評価されたものと考えている。